

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1470901214
法人名	有限会社 ランドマーク
事業所名	グループホームあすなる
訪問調査日	平成24年11月13日
評価確定日	平成25年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901214	事業の開始年月日	平成16年11月1日	
		指定年月日		
法人名	有限会社 ランドマーク			
事業所名	グループホームあすなる			
所在地	( 223-0058 ) 横浜市港北区新吉田東6-15-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い敷地には緑豊かに四季折々の作物や花が育ち、利用者に季節感を感じてもらっている。</li> <li>・建物は広々として解放感があり、窓も大きく明るい作りで、日中は玄関に施錠しないことと相まって、利用者に閉塞感のない生活がしてもらっている。</li> <li>・地域との合同防災訓練・あすなる祭など、ホームが地域の一員として受け入れてもらっている。</li> </ul>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	R-CORPORATION		
所在地	神奈川県鶴屋町3-3-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成24年11月13日	評価機関 評価決定日	平成25年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●このホームは、代表者でホーム長の父上が地区の会長や社会福祉協議会の会長であったことなどから、土地を地域貢献に活用できないかと考えていた時に、区役所から提案があったこともあり、平成16年に「グループホームあすなる」を開設した。その後市からの要請があり、隣接して「あすなる2番館」を平成19年に開設している。建物は、それぞれが独立した家という考えから、1階から2階には直接行かれない構造になっている。立地は、東急東横線綱島駅から徒歩10分程の住宅街にあり、広い地内には、竹林、柿・みかん・梅などの実なる木、大根・小松菜・ねぎなど収穫の楽しめる広い畑が広がる恵まれたスペースとなっている。</p> <p>●地域との関わりは深く、町会と合同で行うあすなる祭、地域と合同の避難訓練、リーダー研修の受け入れ先になるなど、地域に根差した活動をしている。また町会とは防災協定を結んでおり、近隣の方々の避難場所として提供するという話し合いもしている。運営推進会議は、開設当初から欠かさずことなく、2か月に1回偶数月に開催している。事前に活動報告書をメンバーの方々に配布し、当日ご意見を頂くようにしている。</p> <p>●ここでは、教育担当の介護職員を配置しており、一人ひとりの職員の意識が高いことも相まって、レベルの高いケアがなされている。</p> <p>●平成24年の秋に AEDを導入、全職員が使えるよう、研修を受けている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあすなる
ユニット名	ゆず

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域密着サービスに相応しいものとなっている。職員は、内部研修職員会議・日常業務の中で「理念」を意識することで実践につなげている。	理念は7項目からなり、人々(地域)とのふれあいを大切にします・いちもわたしたちがそばにいます、など地域密着サービスにふさわしいものになっている。新人社員研修、内部研修、日々の業務の中で職員に浸透するよう心がけている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が町内会の一員である。地域の行事への参加や、共同イベント(あすなろ祭)・合同防災訓練も行われている。	事業所自体が町内会の一員である。地域の行事への参加や、あすなろ祭。避難訓練などの合同で行う行事も行っているを。町会とは防災協定を結び、近隣の方々の避難場所として提供するという話もしている。茶道や音楽療法のボランティアの受け入れ、保育園児の訪問などの交流もある。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象とした認知症セミナー・施設見学会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際を全て報告し、包括をはじめとする委員の意見を活かし、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は、開設当初より欠かさことなく2か月に一度開催している。メンバーは町内会長、自治会長、民生委員、地域包括センター職員、ご家族などで、事前に活動報告書を配布し、忌憚のない意見を頂いて、サービスの向上に繋げている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	受託事業等を通じ、行政とのやりとりは多い。包括には、毎回運営推進会議に出席してもらっており、ホームの実情をよく知ってくれている。	市の事業をする等により、行政とのやり取りは多く、協力関係が築けている。地域包括支援センターには、困難事例の相談の他、毎回運営推進会議に出席して頂き、ホームの実情をよく知ってもらって、関係を築いている。また、実務者研修、リーダー研修の実習生を受入れている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「重要事項」の中には、身体拘束を行わない旨が明示されており、研修等を通じて、職員はその意味や必要性をよく理解している。	契約書、重要事項説明書に身体拘束を行わない旨、明記されている。内部研修等を通じ、職員にはその必要性を理解してもらっている。日中は玄関・門の鍵は施錠せず、自由に訪問してもらえる体制を作っている。言葉の拘束については、常に注意し、研修を行っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修への参加により、職員各自が自覚を持てるようにしている。また、職場環境にも留意し、働きやすく和やか雰囲気を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や家族会での議題として取り上げている。実際に後見制度を利用されている方もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には懇切丁寧に説明をし、納得していただいた上で契約をしている。重要事項の閲覧やコピーには、常時応じられるようにもしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・意見ポストなど意見の出しやすい環境を整えている。ご家族の来訪時には、その都度利用者の近況を伝え、意見や要望を伺うよう努めている。	運営推進会議・意見ポストなど家族の意見、要望を伺う環境は整えている。家族会は年に2回食事会をはさんで実施し、ておりほぼ全員の家族に参加頂いている。日頃の来訪時には、利用者の近況を伝え、意見や要望を伺うよう、努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア毎の職員会議・リーダー会議常勤会議等で出された職員からの意見や提案は、速やかに運営に生かされる仕組みとなっている。	フロア会議・常勤会議は月2回、リーダー会議は1号館2号館合同で2か月に1回開催されており、職員からの意見や提案は速やかに運営に生かされる仕組みとなっている。また、日頃から職員の様子を見て声をかける等、細やかな対応を心がけている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給やシフトの配慮等職員のやりがいや向上心につながるような就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部での研修の機会が確保されている。現場での職員を育てる仕組みとして、リーダーの養成にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業者間の交換研修・ブロック会での情報交換でお互いに学び合っている。「実践研修」「リーダー研修」の実習生も受け入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者によるアセスメントを行い、ご本人の不安の軽減や要望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を考えるに至ったご家族の心情を思いやり、不安や罪悪感を抱く事無くサービスが利用できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前には、必ず本人と家族を交えたアセスメントを行い、要望も含めて必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に理念を念頭に置き、共に作業し共に楽しむを心がけ、利用者を介護される立場だけに置かないよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の様子は、「月次報告」や面会時にお知らせし、情報を共有することで、共に支えていく関係を築けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染んだ人たちが気軽に訪ねてこられる雰囲気作りをしている。日中は玄関への施錠をしないことが訪問しやすいことにも繋がっている。	近隣の方の入居もあり、日中は施錠しないなど、気軽に遊びに来られる雰囲気作りをしている。家族と一緒に墓参りに出かけたり、携帯電話でお話しする取次ぎをしたり、馴染みの関係が途切れないような支援をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共同しあえる場面を作り交流を持ちながら円滑な関係が保たれるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむをえない理由で契約を終了しなければならない場合でも、出来る限り相談に乗り必要な支援を行うようにしている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスには出来る限りご家族に参加をお願いし、利用者の思いや意向を把握し、ケアプランにあげることで実現に向けて取り組んでいる。	家族の予定に合わせ、カンファレンスを実施し、利用者の日常を知ってもらった上で、ケアプランにあげている。本人の思いをくみ取るよう、日頃の会話などを職員が書き留めケアに生かしている。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより、これまでの生活スタイルを重視し、個々に馴染んだくらしができるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態や心理面に配慮しながらその時の状態に合わせた一日が過ごせるように支援している。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に関わる職員や家族によるカンファレンスの実施や、日常的なアセスメント・モニタリングにより、より現状に即した介護計画を作成している。	利用者に関わる職員全員と家族により、カンファレンスに取り組んでいる。日常的なアセスメント・モニタリングにより、より現状に即した介護計画を作成し、3か月ごとの見直し、変化があったときは、その都度見直しをしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録を記入するとともに、職員間での申し送り（口頭・申し送りノート）により共有された情報は、実践や介護計画に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域ケアプラザやボランティアの人々により、柔軟な対応ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・小学校・保育園との交流があり利用者は楽しみのある生活をおくれている。音楽療法や茶道もその一環である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どこの医療機関を利用するかについては何の制約もないため、本人や家族の意向に沿うようにしている。必要な時は職員も同行し、適切な医療を受けられるように支援もしている。	医療機関については、本人や家族の意向にそうようにしているが、ホームドクターの横山医院にかかっている方が多い。訪問歯科は週に1回、ひまわり看護ステーションから週に1回の訪問がある。緊急時には、高田中央病院との協力体制ができています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携体制が整っており、定期的に訪問してもらうことで利用者の健康管理に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーとは密に連絡を取り合うようにし、家族と医師との話し合いの場を設けてもらい、一緒に参加させてもらうなどの便宜を図ってもらい利用者の症状を知るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の対応し得る支援方法を明確にするとともに、ご家族・医師・訪問看護・介護職員のチームで支援している。今年度も看取った利用者があった。	家族からの要望があり、「看取りについての希望書」を取り交わしている。7月・8月にターミナルの研修を、全職員が受けており、家族・医師・訪問看護・介護職員のチームで支援している。昨年度も2名の看取りをしており、「普通の生活を最後までして頂く」姿勢で取り組んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救急救命法を受講している。事務所内には、対応法と連絡先を掲示し、冷静に対処できるようにしている。今年度はAEDも導入されており使用法についての研修も行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議・町内・地元消防団の協力を得られる体制を整えており、水・食料などの備蓄もおこなっている。地域と合同の避難訓練も行われている。	運営推進会議や地域との合同訓練などを通じ、協力を得られる体制ができている。夜間想定訓練もしている。フローアール単位で食糧・水・カセットコンロの備蓄、防災頭巾・エマージェンシーシートも完備している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者の立場で考える」を実践し誇りを傷つけないようなさり気ない声かけや介助を心がけている。	「利用者の立場で考える」を常に念頭に置きケアをする研修を実施し、実践に繋げている。口調や言葉使いは、利用者個々に合わせて、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の出来ることやしたいことを見極め、自ら行動することに繋がるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の心身の状況を踏まえ各自のペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容・衣服などは、ご本人の意向に沿えるよう、ご家族とも相談しながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた作物を利用し、食事やおやつ作りの一部に参加してもらうことで楽しんでもらえている。	レシピ付きで、食材会社を活用、フローアー毎に調理師が調理し、ホームの畑で採れた竹の子・ふき・大根・薩摩イモ等を利用して1品を加え、話題と共に楽しんで頂いている。出来る利用者には、下ごしらえ・後片付け・おやつ作りなどを一緒にやって頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食物や形態は利用者個々に合わせたもので提供し、無理なく必要量が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施するとともに、イソジンによる嗽も含めて清潔が保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の発するサインを見逃さないことやチェック表を活用することで、適切なトイレ誘導を行い、失敗を防ぐようにしている。	本人の発するサインを見逃さないよう、また排泄チェック表を活用することで適切なトイレ誘導を行い、トイレで排泄していただく事を基本に支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・果物・牛乳などの排便を促す食品を摂ってもらったり、定時にトイレに座ってもらうなどして便秘の予防をするようにしている。そうした試みから自然排便に繋がった利用者もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者個々の好みを把握し、その日の気分に合わせて、午前・午後と柔軟な対応をしている。拒否のある利用者に対しては、チームプレイでのぞみタイミングを見て誘導することで入浴が可能となっている。	利用者個々の好みを把握し、その日の状況に合わせて、午前・午後と柔軟な対応をしている。拒否のある利用者に対しては、チームプレイで臨み、座位の取れない方でも工夫して、入浴を楽しんでもらうよう、支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の気分や体調に合わせて活動を決め、ご本人のペースを乱さないことで休息や睡眠が取れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々に薬ケースを用意し、薬名・効能・注意事項を明記し、職員がその内容を知った上で支援するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなこと・得意なことを見極め活躍の場を作ることで、やりがいや楽しみに繋がっている。 草取りを趣味とする利用者もありホームの環境を生かした楽しみごととなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とも協力し合いながら、地域行事への参加や日常の買い物・外泊などの支援を積極的に行っている	家族とも協力し合いながら、地域行事への参加や日常の買い物などの支援を行っている。天気の良い日には、近所の公園や広い庭での外気浴、神社の境内へのお花見、横溝屋敷へひな人形を見に出かけるなど、支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要額を財布に入れて持っただき少額の買い物や美容院への支払いがご自身でできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・書中見舞いなど、書けない方の代筆をしたり、フロア毎に置かれている携帯電話で、電話の取次ぎもしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールは空調が整い、大きな窓からは畑や果樹が見え、季節感を身近に感じながら快適に過ごせている。	リビングは、利用者が自然と集まってくれるような雰囲気作りを心がけている。大きな窓からは、畑や果樹が見え、自然の光が差し込み、静かなBGMを流して快適な空間となっている。畳スペースではお雛様を飾ったり、お花を活けたり、ボランティアの茶道を楽しんだりしている。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナー・居室など思い思いの場所でくつろいで生活できている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具や持ち物で、各々居心地の良い居室となっている。	タンスやテレビなど、本人の馴染みの家具を持ち込んで頂き、居心地良く暮らせるような工夫をしている。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を付けたり、トイレへに目印を付けることで目的の場所へ行けるようにしている。 分からない利用者には、素振りを察知することでさり気ない誘導をしている。			

事業所名	グループホームあすなろ
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域密着サービスに相応しいものとなっている。職員は、内部研修職員会議・日常業務の中で「理念」を意識することで実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が町内会の一員である。地域の行事への参加や、共同イベント（あすなる祭）・合同防災訓練も行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象とした認知症セミナー・施設見学会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際を全て報告し、包括をはじめとする委員の意見を活かし、サービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	受託事業等を通じ、行政とのやりとりは多い。包括には、毎回運営推進会議に出席してもらっており、ホームの実情をよく知ってくれている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「重要事項」の中には、身体拘束を行わない旨が明示されており、研修等を通じて、職員はその意味や必要性をよく理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修への参加により、職員各自が自覚を持てるようにしている。また、職場環境にも留意し、働きやすく和やかな雰囲気を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や家族会での議題として取り上げている。実際に後見制度を利用されている方もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には懇切丁寧に説明をし、納得していただいた上で契約をしている。重要事項の閲覧やコピーには、常時応じられるようにもしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・意見ポストなど意見の出しやすい環境を整えている。ご家族の来訪時には、利用者の近況を伝えるとともに、意見や要望を聞き運営に生かす努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア毎の職員会議・リーダー会議常勤会議等で出された職員からの意見や提案は、速やかに運営に活かされる仕組みとなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当での支給やシフトの配慮等職員のやりがいや向上心につながるような就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部での研修の機会が確保されている。現場での職員を育てる仕組みとして、リーダーの養成にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業者間の交換研修・ブロック会での情報交換でお互いに学び合っている。「実践研修」「リーダー研修」の実習生も受け入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者によるアセスメントを行い、ご本人の不安の軽減や要望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を考えるに至ったご家族の心情を思いやり、不安や罪悪感を抱く事無くサービスが利用できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前には、必ず本人と家族を交えたアセスメントを行い、要望も含めて必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に理念を念頭に置き、共に作業し共に楽しむを心がけ、利用者を介護される立場だけに置かないよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の様子は、「月次報告」や面会時にお知らせし、情報を共有することで、共に支えていく関係を築けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染んだ人たちが、気軽に訪ねてこられる雰囲気作りをしている。日中は玄関に施錠をしないことが訪問しやすいことにも繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共同しあえる場面を作り交流を持ちながら円滑な関係が保たれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむをえない理由で契約を終了しなければならない場合でも、出来る限り相談に乗り必要な支援を行うようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスには出来る限りご家族に参加をお願いし、利用者の思いや意向を把握し、ケアプランにあげることで実現に向けて取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより、これまでの生活スタイルを重視し、個々に馴染んだくらしができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態や心理面に配慮しながらその時の状態に合わせた一日が過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に関わる職員や家族によるカンファレンスの実施や、日常的なアセスメント・モニタリングにより、より現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録を記入するとともに、職員間での申し送り（口頭・申し送りノート）により共有された情報は、実践や介護計画に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域ケアプラザやボランティアの人々により、柔軟な対応ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・小学校・保育園との交流があり利用者は楽しみのある生活をおくれている。音楽療法や茶道はその一環である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どこの医療機関を利用するかについては何の制約もないため、本人や家族の意向に沿うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携体制が整っており、定期的に訪問してもらうことで利用者の健康管理に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーとは密に連絡を取り合うようにし、家族と医師との話し合いの場を設けてもらい、一緒に参加させてもらうなどの便宜を図ってもらい利用者の症状を知るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の対応し得る支援方法を明確にするとともに、ご家族・医師・訪問看護・介護職員のチームで支援している。今年度も看取った利用者があった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救急救命法を受講している。事務所内には、対応法と連絡先を掲示し、冷静に対処できるようにしている。今年度はAEDも導入されており使用法についての研修も行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議・町内・地元消防団の協力を得られる体制を整えており、水・食料などの備蓄もおこなっている。地域と合同の避難訓練も行われている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者の立場で考える」を実践し誇りを傷つけないようさり気ない声かけや介助を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の出来ることやしたいことを見極め、自ら行動することに繋がるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の心身の状況を踏まえ各自のペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容・衣服などは、ご本人の意向に沿えるよう、ご家族とも相談しながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の作物を採って一品として加えたり下ごしらえ・後片付けなど、できる場所に参加することにより、食事が楽しめる物になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量や形態は利用者個々に合わせたもので提供し、無理なく必要量が摂れるように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施するとともにイソジンによる嗽も含めて清潔が保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の発するサインを見逃さないことやチェック表を活用することで、適切なトイレ誘導を行い、失敗を防ぐようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・果物・牛乳などの排便を促す食品を摂ってもらったり、定時にトイレに座ってもらうなどして便秘の予防をするようにしている。そうした試みから自然排便に繋がった利用者もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者個々の好みを把握し、その日の気分に合わせて、午前・午後と柔軟な対応をしている。拒否のある利用者に対しては、チームプレイでのぞみタイミングを見て誘導することで入浴が可能となっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の気分や体調に合わせて活動を決め、ご本人のペースを乱さないことで休息や睡眠が取れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々に薬ケースを用意し、薬名・効能・注意事項を明記し、職員がその内容を知った上で支援するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなこと・得意なことを見極め活躍の場を作ることで、やりがいや楽しみに繋がっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とも協力し合いながら、地域行事への参加や日常の買い物・外泊などの支援を積極的に行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要額を財布に入れて持っただき少額の買い物や美容院への支払いがご自身でできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・書中見舞いなど、書けない方の代筆をしたり、フロア毎に置かれている携帯電話で、電話の取次ぎもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールは空調が整い、大きな窓からは畑や果樹が見え、季節感を身近に感じながら快適に過ごせている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナー・居室など思い思いの場所でくつろいで生活できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具や持ち物で、各々居心地の良い居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を付けたり、トイレへに目印を付けることで目的の場所へ行けるようにしている。 分からない利用者には、素振りを察知することでさり気ない誘導をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム  
あすなろ

作成日 平成24年10月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13 14 18	認知症介護の理念を理解し実践できる人材を育てる仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割の明確化</li> <li>・主任・副主任と管理者の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーに求められる役割と問題の抽出</li> <li>・課題に応じた研修勉強会の実施</li> <li>・職員の自立度に応じたティーチングからコーチングへ</li> </ul>	12か月
2	33	重度化した認知症介護における職員の意識の向上を図る	重度化した認知症ケアに対し、柔軟な対応ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部・内部研修への参加</li> <li>・職員個々の認知症ケアの技術の向上</li> <li>・行動目標をたて意識の向上を図る</li> <li>・家族・職員間での情報の共有</li> </ul>	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。